

ボランティア実務士教育課程ガイドライン

21. 4. 1 制 定

本協会におけるボランティア実務士の資格認定を受けようとする場合は、「ボランティア実務士資格認定に関する規程」をもとに教育課程を編成すること。更に詳しい授業内容については以下のガイドラインを参照のこと。

教育目標

ボランティアに関する基礎知識・専門知識に加え、それに必要とされる技術と実務能力を養成することを教育目標とする。

I. 必修科目

ボランティア概論

今日のボランティア活動の現状・動向等について理解する。ボランティア活動の社会的価値及び社会的意義とそのあり方を理解する。

ボランティア実務 I

相談の基本的知識・技術を習得し、面接・電話等の状況別の基本的な対処方法を身につける。寄せられる相談ケースの代表的なパターンと、その対処方法を学ぶ。相談ケース等管理方法の基本を身につける（相談カード等のとりまとめ・統計・分析等）。手話やボディアクションによるコミュニケーション方法を身につける。

情報処理

ボランティア活動に関する情報提供の要望に対応するために、情報整理・提供の方法・ツール等（ファイリング、カード、広報誌、パンフレット、パソコン通信等）の種類について学ぶ。ボランティア活動に関する情報収集・活用ができるようにする。特に、情報を求める相手に合わせての対処ができるようにする。

プランニング I

ボランティアが地域のニーズ・特性、所属する組織の価値・方針計画等を十分に理解して業務にあたることの大切さを学ぶ。業務・活動の全体の有機的な展開を図る着眼点を身につける。計画を具体化していく上での資源（拠点、人、財源等）開発・調達の必要性・方法を理解する。個々人の価値観、年代、職業、生活歴等により活動する人には様々なニーズ・欲求があることを理解し、これらの希望に応じて活動を作り出していくことの必要性を理解する。

ボランティア演習（事前事後指導）

事前指導によりボランティアを実践する機関について一般的理解を図る。さらに実習中および実習直後の集団指導を通して理解の深化を図る。

ボランティア実習 I

ボランティア活動に参加し、ボランティアとしての役割・倫理等について理解する。

II. 選択科目

<第 I 群>

ボランティア活動ケーススタディ

ボランティア活動の事例をもとに、ボランティア活動の実際について理解する。

ボランティア特論

NGO・NPO・ODA・青年海外協力隊等について学ぶ。

ボランティア実務Ⅱ

基本的には相談と同様であるが、特にここでは典型的なケースに対処する際の着眼点、展開の見通しを理解し、対処ができるようにする。特に、安易には対応できないケース、直接活動につながらないケース等典型的な困難ケースに対する初期の受け止め方と必要に応じた適切な他機関・他サービスへの橋渡しができるようにする。手話やボディアクションによりスムーズに意志を伝わらせることができるようにする。

防災・災害論

災害時におけるボランティアの役割、受入れ、地域関係機関及び関係者とのネットワークを学ぶ。災害時におけるサバイバル方法等について学ぶ。

プランニングⅡ

活動の場・プログラムを具体的に開発していく際の着眼点、情報源（調査結果、相談カード）、資源（キーパーソン、財源、関係機関等の社会資源）、プロセス（企画・展開の母体づくり、広報募集、研修等）、評価及び計画の修正について理解し、実際に実行できるようにする。

レクリエーション技術演習

レクリエーションの技術を学ぶとともに、地域の中での団体間の交流の支援、レクリエーションについての相談、情報の提供、計画・企画、支援、対組織のレクリエーション条件づくりの課題等を学ぶ。

ボランティア実習Ⅱ

ボランティア実習Ⅰとは異なる分野のボランティア活動に参加し、ボランティアとしての役割・倫理等について理解する。また、サバイバルの方法も実習する。

<第Ⅱ群>

第Ⅱ群は大学でボランティア教育に必要として設置する科目の内容とする。